

Time is Money ～観光客の消費を増やすために～

沖縄県立首里高等学校 3年生 島袋 眞子

皆さんは沖縄とってなにを思い浮かべますか。青い海、白い砂浜、眩しい太陽に豊かな自然。私たち県民はもちろん、多くの人に愛される島だと思います。さて、そんな魅力溢れるこの島には毎年九百万人を超える観光客が訪れます。昨年度はついにハワイの観光客数を抜き、観光立県としての沖縄は成長し続けています。

しかし、こんな数字もあります。ハワイの観光客の平均消費額と沖縄のとでは、二倍以上の差があるということです。消費額が増すことは、沖縄の収益に繋がるだけではありません。観光客の満足度が目に見える形で現れるのが、消費額なのです。では、消費額を増やすためにはどうすれば良いのでしょうか。

ズバリ、公共交通機関を発展させることです。なぜそれが消費に繋がるのか、目を閉じて想像してみてください。あなたは期待に胸を膨らませ、計画を立てて沖縄にやってきました。レンタカーに乗っていざ出発！わくわくしながら運転をしていると、なんと渋滞に巻き込まれてしまいました。これは痛いロスタイムです。「ああ、こんな時間に着いてしまった。次の目的地は諦めよう。」「もう少しここにいたいけれど、もう出発しなきゃ。」こんな風に、計画通りにいかないと、がっかりしちゃいますよね。「期待以上の沖縄旅行」というプレミアム感が薄れてしまう瞬間です。

また、あなたが訪れるつもりだった観光地は、入場料やそこでの飲食代、お土産代など本来得られるはずだった消費を逃してしまいます。利益としては0のままですが、プラスになるはずだったものが得られないとすれば、それはマイナスです。

観光客がプレミアム感を味わう時間イコール消費の時間なのです。そんな貴重な時間を移動時間に奪われてしまわない為に、沖縄の公共交通について、私は三つの“やすい”を提案します。それは、一「分かりやすい」、二「使いやすい」、三「価格がやすい」です。

一つ目の「分かりやすい」というのは、バスやモノレールの仕組みをもっと分かりやすくするというものです。現在のバスとモノレールはそれぞれが独立した路線で相互性がなく混乱を招いています。例えば、観光の中心地である国際通りでは、モノレールの牧志駅を降りたところに安里バス停があります。目的地の表示がまちまちでは迷惑ですし、観光客に不親切だと受け取られかねません。バスターミナルと駅との連結や、表示の統一化など、お互いがお互いの利用を促進し合う形にできるはずです。

また、「バスモノパス」や「バスなび沖縄」といったサービスがありますが、あまり認知されていません。モノレールとバスの一乗車券である「バスモノパス」は、各営業所や駅のみでの販売です。自分から調べない限り存在に気がつきにくいのです。例えば、目につくところに自動券売機を設置して手軽に買えるようにするのはどうでしょう。宣伝をしなくても存在に気がついてもらえます。一度乗車券を買えば、行く予定のなかったところまで行動範囲が広がるかもしれません。

「バスなび沖縄」では、バス停にあるQRコードを読み取るとバスの所在地が分かたり、サイトから登録するとバスの接近をメールで知らせてくれたりします。とても便利ですが、QRコードが小さいため気づきにくく、観光客にはまだまだ浸透していないようです。実際に私が下校する時、キャリーバッグ片手にバス停でバスが来ないと困っている観光客をよく見かけます。実は十分程の遅れの為ですが、観光客はもうバスは通過したのだと諦めて重い荷物を引いて歩き出すのです。このように、今あるせつかくの取り組みが気づかれないのはとても残念なことです。もっと目立たせて、分かりやすくする工夫が必要だと思います。

二つ目の「使いやすい」というのは、バスを観光客が行きたいと思った場所にすぐ行ける交通手段になることです。一本の路線でたくさんの場所を抑えるのではなく、バス路線を簡略化し、場所を絞ってその間での便数を増やす方が有効な手段となるでしょう。実際に京都では、「北野天満宮行き」、「伏見稲荷神社行き」、とスポットごとに路線を限定したバスが頻繁に行き来しており、手軽に乗ることができました。沖縄とは道路状況に差

はあると思いますが、バスのサイズを小さくしたり燃費を良くしたりすれば、便数を増やすことも可能ではないでしょうか。また、短い距離であれば、渋滞にも巻き込まれにくくなり、遅延も減るはずです。そうすれば、目的地で過ごす時間をより確保できるでしょう。

そして、三つ目は「価格がやすい」。これは、普段バスやモノレールを利用して思うのですが、乗車料金がとても高いです。

先程挙げた「バスモノパス」は一日千円となっており、現状では割高に感じられます。京都でも同様にバスの一日乗車券がありましたが、こちらは一日五百円でした。大人でも六百円だそうです。公共交通機関ですから、学生でも手軽に利用できるような料金であれば、修学旅行生にもより沖縄を楽しんでもらえると思います。

沖縄を訪れた観光客に、もっと沖縄を楽しんで欲しい。「沖縄にまた来たい」と思って欲しい。これは全てのうちなーんちゅの願いでしょう。守礼の邦として、ウェルカム精神の根ざすこの島を、その身一つで余すところなく味わってもらうためには、さらなる公共交通機関の発展が必要不可欠です。観光客の増加で、沖縄の観光に追い風が吹く今、さらなる消費を促す工夫が求められます。消費額とは、観光客の心を映す鏡なのです。